

平成29年度第1回 豊川市子ども・子育て会議 会議録（要約）

平成29年6月22日（木曜日）
午後1時30分～午後3時45分
於：豊川市役所 本34会議室

1 委員等紹介 （略）

2 あいさつ 白垣会長によるあいさつ （略）

3 議事

(1) 子ども・子育て支援事業の進捗状況について（平成28年度実績）

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・児童クラブや保育園の整備について、田舎の方は置いてけぼりな感じがする。ニーズがあるのに、あまり対応されていないように感じる。
- ・この計画は、国の指導で市民ニーズの調査をして作成したものである。市民にアンケート調査をしたところ、大変多くの市民ニーズがあることが分かった。豊川だけではなく全国的に。その結果、国から市町村に対して、その結果に一定の補正をかけて数値を低くするように指導があった。そのため、市民ニーズをそのまま反映させたものではなく、そこそこの数値の計画となった。だから、市が十分に対応していないように感じるのではないかと。市単独ではなく、国全体の問題である。
- ・田舎は、子どもが歩いて遊びに行ける場所も少ない。街なかの方が児童クラブや習い事の場所も多くあるのではないかと。人数が多いところから対応するのは分かるが、田舎の方は人数も少ないのに、児童クラブにも入りにくいという現状がある。

（事務局）保育園は、「利用調整」といって、利用者数が多いと他の園をご案内することがある。ご指摘の地区については、申し込めば入れる状態にある。つまり、ニーズに対する施設は足りている、ということになる。街なかの方では、申し込んでも入れないところがある。市としては、そういったところをどうするかが、どうしても先になってしまう。

児童クラブは、施設の整備を進めていくときに、街なかや周辺地域という理由で差をつけることは全くない。ニーズが高いところから、つまり待機児童が多いところから解消を進めている。
- ・子ども・子育て支援新制度で、これまで児童クラブに入れるのが3年生までだったのが、4年生以上も入れることになったが、その受入れのために莫大な予算が付いて施設の確保が進んでいるかといえば、そうはなっていない。市は努力をして関係機関等と折衝・調整をしながら、施設の確保・人の確保を進めている。市のレベルでは、これが最大限の結果なんだろうと考える。
- ・児童クラブは、祖父母が近くにいると申し込めないのか。そういった人を対象から外しても児童クラブは足りないのか。

(事務局) 同居の祖父母が就労していなければ、入所の要件に当たらないが、祖父母が近所に住んでいるのは入所要件として問わず、申込みはできる。

- ・困っている方を優先しないということはあるのか。

(事務局) 実務的には、申込みを受けた段階で、父母と祖父母の就労状況等を確認している。就労時間等を点数化して、その点数の高い方から優先的に入所のご案内をしている。就労時間だけでなく、学年も点数化して、低学年ほど配点を高くしている。

- ・行政側の運営・やり方としては、特に問題ないと思うが、そもそも計画数値を決定するとき、国の指導で補正をかけたのが問題である。アンケートの数値そのままとして、何とかそれに近づけるように国も予算を付けてくれればいいのだが、そうになってない。

(事務局) 児童クラブの大変な状況は、豊川市だけではなく、全国どこも同じである。内閣府の地方分権推進室が間を取り持って、国の規制により地方が困っていることを所管省庁に訴える制度があり、現在その制度を使って、各自治体が、児童クラブの要件緩和について声を上げているところである。

- ・事務局が「人と施設の確保を進めている。」と言ったが、人の確保・施設の確保のそれぞれが、どれだけ大変なことか。児童クラブの現場で従事する者としては、1人あたり1.65㎡の確保は、1年生から6年生までが同居する部屋の中で安全を確保するためには絶対に必要と考える。これから夏休みに向けて利用する子ども達が多くなるが、それを見守る大人がいない。しかも、高齢のスタッフしか集まらない。予算が付かないと、若い人を確保できない。先ほど事務局が、「国に対して声を上げている。」と言ったが、いろんな機会でも声を上げていけばいいと思う。子どもの安全を確保するために児童クラブがあるのだが、現実的にはその安全を確保できていないということにジレンマを感じている。
- ・いろんな子どもさんや家庭と関わっていると、預かる側はよく頑張っているが、子どもにとって一番大事な家庭の影が薄いように感じる。つまり、家庭と子どもの関わり方が希薄になっていると考える。親が子どもを見られないから預ける、結果、子どもを見ているのは親ではない、という状況を数多く見て、子どもたちをどうしてあげたらいいのか分からなくなる。
- ・それは、子ども・子育て支援新制度の本質的な問題である。この制度に、「保育は誰がするのか。」という視点が欠けている。内閣府としては、「女性が社会で輝けるために。」という制度だった。だから、「子どもは社会で見ながら、女性は働けるように。」という流れだったはずなのに、それが現実はそうになっていない。
- ・昔は、祖父母と同居が多かったので、子どもの育て方も何となく分かったが、今は核家族が多く、育て方を知らない親が多い。自分が愛情をかけられていないから、子どもへの愛情のかけ方が分からない。子育ての大事さを分かっているやむを得ず預けるのではなく、子育てするより預けて働いた方がラクという親が増えているような気がする。
- ・最近では、発達障害又はその疑いありと診断される子が年々増えている。中でも愛着障害というのが増えている。昨今の状態は、由々しき問題だと考える。
- ・この資料の報告で気になるのが、児童館（地域子育て支援拠点事業）の評価の

である。計画上のニーズ量が多いのに対し利用者が大変少なかったということで、達成度としては“×”だけど、みんな使えたから“◎”だという評価はいかがなものか。

- 基本的には、実際に利用したい人が利用できればいいのではないか。利用したい人が排除されるようなことがあれば、それは問題視すべきだが。

(事務局) 説明の仕方が悪かった。みんな使えたからよしではなく、“×”は“×”である。“×”の原因は、乳幼児とその保護者の利用がまだまだ目標に至っていないからである。ここまで計画と実績に開きがあると、劇的に改善することは難しいが、まだまだ改善の余地はあると考える。“◎”だから何もしなくて良いのではなく、今後も改善を進めていかなければならない。

- 児童クラブについて、この計画を作ったときは対象が3年生までで、その頃は「4年生以上の子は家で留守番するから、児童クラブはそんなに利用しない。」という感覚だったが、今は「高学年も入れるなら、まあ入れようか。」という軽い感覚で入れる人が増えているのではないか。以前は、親が家にいないときの低学年の子の安全確保という意味合いでの利用だったと思うが、保護者の感覚もここ数年で変わってきたように思う。以前は、「高学年なんて、児童クラブに行きたがらない。」と言っていたと思う。高学年を入れることにより、本来に必要な低学年の子が入れないようなことはないか。

(事務局) 入所の要件は、全て点数化して審査している。就労要件のほか、学年で点数を大きく分けている。低学年の方が、優先度が高くなるような点数配分をしている。今までは、保護者の感覚として、4年生になって入れなくなっても、「まあそういうものか。」と受け入れられていたのが、「入れるんだったら入れようか。」というように、高学年になっても使い続けている方が増えたように見える。

- 新制度になって、本来は6年生まで全員しっかりと預かって、親には安心して働いていただく、というようになってないといけないのに、点数配分をして入所の優先度を決めなければいけないという実態はおかしい。
- 大人の見守りがあって子どもが安心して過ごせる場所がもっとあればいいと思う。お金を払わないと入れない児童クラブだけでなく、公民館などで地域の人が将棋を教えてくれるといったことがあってもいいと思う。
- 昔は、児童館でも将棋教室のようなものがあつたと思うが、今はどうなっているのか。特に周辺地域では、そういったことが少なくなっているように思う。

(事務局) 児童館の事業を街なかで厚く、周辺地域で薄く、といったことは全くない。今は広報が月1回になって、児童館の情報を載せにくくなったが、今もボランティアによる将棋教室などは行っている。その地域にいるボランティアによって、将棋教室や卓球教室など、やっている内容はさまざまである。ただ、教室に参加しない人も自由に出入りできる施設なので、毎日教室で埋めてしまう訳にはいかない。

- 地域でもう少し交流があればいいと思う。
- 地域によっては、高齢者と子ども達がしっかり交流しているところもある。
- ここ数年周りで就労しているお母さん方が増えてきたという実感はある。児童

クラブがこんなに大変な状況だとは知らなかった。人の確保が大変だと聞いたが、従事するのに何か資格は必要なのか。

(事務局) 各児童クラブに2人以上配置する必要があるが、そのうち放課後児童支援員としての資格が必要なのは1人で、あとは資格のない補助員でも良い。夏休みなどは大学生にも手伝ってもらっている。

- ・児童クラブは人がいなくて困っているようだが、幼稚園も人がいない。
- ・豊川だけの地域的な問題ではなく、保育関係への進学者が激減している。
- ・保育士資格、幼稚園教諭の資格を保持しながら、一旦引退したあと復帰しない人が多い。そういった方々が働きやすい環境を作るのも大事ではないか。

(2) 地域型保育事業について

【非公開】

4 その他

(事務局より) ・子ども・子育て支援事業計画について、現在国の方から、中間見直しをするかどうかという調査が来ている。今後どうなるかまだ分からないが、詳しいことが分かったら委員の皆さんにも情報提供をする。

- ・次回は9月22日(金)を予定している。3回目は12月、4回目は翌年3月を予定している。